

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101335		
法人名	有限会社 大垣ケアサービス		
事業所名	グループホームあおぞら		
所在地	岐阜県大垣市林町8-69		
自己評価作成日	令和4年9月1日	評価結果市町村受理日	令和4年10月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2172101335-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2172101335-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和4年9月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>コロナ禍によりホームでの過ごし方に変化はありますが、笑顔あふれる日々が過ごせるよう、ご利用者様一人ひとりの思いに寄り添い、「その人」らしい生活が送れるよう支援に取り組んでいます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>コロナ禍にあり、事業所の面会制限レベルに応じた感染予防対策を行いつつ、利用者が家族や地域との関係を継続し、その人らしい生活が送れるよう支援している。終末期が近づいた際には、家族と再度話し合い、医療機関や行政の協力を得て、利用者と家族が満足できる対応と穏やかな時間を過ごせるよう努めている。職員は訪問医療と連携し、情報共有と助言を得ることで安心して充実した看取りケアの提供が行えている。管理者は、職員の意向や意見を取り入れた職場環境の整備、ワークライフバランスを考えた勤務体制の考慮等を行っており、職員との信頼関係は良好で職員の満足感や定着率も高い。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつまでもその人らしさを大切に」を運営理念として掲げています。日々、理念に沿った支援を意識し、「その人らしさ」を大切に生活を送れるよう努めています。	管理者は、理念を掲示し、カンファレンスや日々のケアの中で、理念に基づいた具体的ケアについて職員に伝えている。職員は、利用者一人ひとりのニーズとケアは異なること、思いを大切にケアすることなど、常に意識し支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により地域との関わりを持つことが難しくなっています。	コロナ禍のため、地域の行事・活動は休止となり、住民との交流が難しくなっている。今後は、地域で開催されている体操教室に利用者と職員が一緒に参加できるよう申請するなど、地域との交流機会を積極的に設けることを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により地域との関わりが希薄になっている現状です。ホームから発信できるような活動を計画していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえて書面開催とホーム開催を行っています。	現在、運営推進会議は書面開催としている。委員に報告書と意見書を郵送し、感想やアドバイスを得ている。家族から会議開催の要望がある為、状況を見ながら、参加者のスペースが確保できる地区センターを活用して開催することを検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	支援に関する相談や法令に関する相談等を行い連携を図っています。事業継続計画や法令遵守の観点からも積極的に連絡を取り連携を図っていききたい。	行政の担当者とは日頃から連絡を密にとり、入居希望者の情報交換、入居受け入れの判断についての助言を得るなど、協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを継続しています。「身体拘束適正化のための指針」をもとに、ホーム全体で取り組んでいます。	身体拘束適正化委員会を開催し、身体拘束ゼロに取り組んでいる。常に拘束をしないケアへの意識を高く持ち、行動抑制につながる言動についても職員間で話し合っている。スピーチロックは、身体拘束に含まれる事を認識し、職員同士が積極的に意見交換を行い支援の向上に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何気ない日常の声かけが、利用者の側には「虐待」と受け取れる場合もあるのではないかと、常に意識を張り巡らせ虐待防止に努めています。		

岐阜県 グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料提供を行う等し、スタッフが学ぶ機会を持っているように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の内容説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム通信や個人通信を作成し、日々の取り組みにや様子等の開示に取り組んでいます。また家族の思い要望、意見を伺い、運営に反映できるよう努めています。	家族には、奇数月に事業所の状況を報告するホーム通信と、偶数月に利用者個々の状況を記述した個別通信を発行している。家族の思いや要望などは、面談や電話で確認し支援に反映させている。オンライン面会なども、実現に向けて検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との意見交換を定期的に行い、課題の気づきや改善に努めています。	管理者は、職員が意見や要望を出しやすいように、声掛けや配慮をしながら関わり、良好な関係を築いている。また、職員の様々なアイデアを活かして運営に反映させたり、働きやすい勤務体制や環境を整備し、支援の質の向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望に沿った休日の確保や有給休暇の取得を積極的に行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修(オンライン)についての情報提供を行い、参加を集めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンライン開催される市の定例会や研修へ参加しています。同業者とは相互訪問は難しいが、電話連絡で、支援相談等を行いサービスの向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談時に、本人や家族の思いや支援について、関係機関から身体状況に関する情報等を得られるよう話し合いを行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望や心配事、支援に関する思いを聞き取りを行い、サービスに繋げています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	提供できるサービスは迅速に対応しています。その他のサービスについても情報を集め、ご家族や本人への提案を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動を一緒に行ったり、雑談を楽しむ・心配事を傾聴する等、利用者の気持ちに寄り添いながら、生活を共にしているという気持ちが築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染症対策為面会の機会が減っているが、受診の付き添い等家族の協力を得ながら支援をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染予防の為、行動制限を依頼しているが、その中でも可能な限り外出や面会を実施し関係の継続に取り組んでいます。	感染予防対策として面会制限をしているが、看取り期にある利用者の親族には、居室での面会を許可している。また、地域の感染状況を見ながら、ルールを定めた上で、散歩や買い物、ドライブなど、家族と外出する機会が持てるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自身の生活ペースを大切にしながらも、他者との関係も築けるような場面作りをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が新しい環境に馴染め、継続した支援が受けられるよう情報提供を行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションを図り、意向の把握に努めています。また、馴染みの関係が築けるよう思いに寄り添った支援に取り組んでいます。	利用者との会話や関わりの中で、思いや意向を把握し、職員間で共有しながら支援している。利用者の希望でもある「自宅や買い物に行きたい」などのニーズについては、家族の協力を得ながら、できる限り叶えられるようサポートしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や入居後の暮らしの希望等の確認を行います。また、入居前に利用していたサービス機関や入院機関への情報提供依頼も行っていきます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや、介護の中で入居者一人ひとりに対する情報を共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員や関係機関(医師・看護師・薬剤師・家族)と意見交換を行い、介護計画の作成を行っています。	事業所オリジナルの記録の工夫により、利用者の状態を職員間で情報共有し支援に役立てている。介護計画のモニタリングは、家族や医師をはじめ多職種で意見交換を行い作成している。状態の変化に応じて速やかに変更するなど、適切な支援に努めている。	業務記録を各利用者の介護記録に記しながら、ケアプランに沿った記録が確認できるよう更なる工夫に期待したい。また、看取り時の対応も、職員が安心して支援できるマニュアル作成にも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有し、事故予防に努めたり、支援方法を見直すなどしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスが受けられるように、本人や家族のニーズに応えられるよう努めています。		

岐阜県 グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策の為、地域資源の活用が制限される事が多くあるが、地域資源の活用に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向による選択が可能です。協力医は月2回の往診以外にも状態に合わせた相談や臨時往診を受けています。協力医以外での受診や往診も場合も同様に連携を図っています。	契約時に、かかりつけ医が選択できることを利用者と家族に説明している。利用者の多くが協力医を選択している。従前のかかりつけ医を選択した場合も、重症化と共に協力医に変更ができる。月2回の往診、定期的な皮膚科・歯科の往診等も受けられるよう支援し利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護師が、「相談・報告・指示・助言」が行える関係を築いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時に、入院先の病院と連携を図り情報の共有に努めています。また、可能な限り面会や病院への連絡を行い、状態の把握に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期についての指針の説明を行っています。本人やご家族の意向に沿えるよう、関係機関と連携を図っています。	契約時に、重度化や終末期の指針について説明している。状態の変化時は、早期に説明した上で、再度、家族の意向を確認しカンファレンスを行っている。職員は、利用者と家族の意向を汲み取りながら、医師や訪問看護師と相談、助言を得て支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡方法・救急車の要請・対応について随時職員を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・水害訓練を実施しています。災害時の電話連絡の訓練の協力を家族に依頼し協力を得ています。	未だコロナ禍にあり、地震・火災訓練は、延期している。水害時における避難訓練は、家族に電話での参加を依頼し、垂直避難を設定して実施している。隣接する本社と近隣の事業所でハザードマップを確認し、協力体制を築いている。自家発電機も設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染みの関係であるからこそ、人格の尊重・誇りやプライバシーの尊重を重視した対応を行っています。	職員は利用者一人ひとりの尊重とプライバシーの確保について、常に意識しながら支援している。日頃から、会話の内容によっては、利用者の情報に触れる際には、細かな配慮を心がけ、誇りやプライバシーを損ねないように努めている。また、職員の意見を押し付けることなく、自己選択や自己決定を守ることを意識し支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が活動等を決めるのではなく、利用者に参加の有無を確認したり、要望の実現に向けて取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	週間予定を作成し、活動時間を設けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣の汚れや乱れを整え、いつも清潔にそして「その人」らしくいられるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関わる準備や片付けを職員が一手に担うのではなく、利用者それぞれの状態に合わせてながら配膳や下膳・食器洗い等と一緒にしています。	職員が、三食の食事とおやつ献立を考え調理している。主食の選択や利用者のリクエストメニューも取り入れている。9月より、ネット注文による買い物で職員の負担を軽減させている。利用者も出来る範囲で参加しているが、年々難しくなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量の管理を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけ・介助を実施しています。歯の状態により、歯科医師・歯科衛生士の往診を依頼しています。		

岐阜県 グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを記録し、職員間で共有しています。トイレでの排泄が継続できるよう支援を行っています。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。排泄量も考慮し日中の活動や夜間の睡眠を妨げないよう、おむつやパットの選択に努めている。オムツ業者のアドバイスも得ながら、利用者が快適な生活を送れるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排便リズムを把握しています。多職種連携(医師・看護師・薬剤師)を図り、便秘の改善に向けて相談もを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴が行える体制を整えています。1対1支援(状態によっては2名介助)を行い、ゆったり入浴できる支援をおこなっています。	利用者の希望する日時、回数で入浴できるよう体制を整えている。利用者の重症化も進んできたため、個浴にリフト式椅子を設置し、利用者及び職員の負担軽減にも繋げている。利用者の状態によっては、複数介助で、ゆったりと安全に入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせた「起床・昼寝・就寝」の時間となるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ薬剤師を中心とし、内服・外用薬の効果や副作用の確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「できること」「したいこと」に合わせて家事活動やレク活動への参加しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染状況により外出を見合わせる期間もありますが、家族やスタッフと商店で出かけ買い物をしたり、近所へ散歩に出かける等の支援を行っています。	感染予防対策をした上で近所を散歩したり、屋外で過ごせる機会を作り、気分転換を図っている。また、利用者と家族の思いを受け止め、家族の協力も得ながら買い物や外出ができるよう支援している。	今後も、感染対策が必要である事は予測できる。事業所の面会制限レベルに応じた面会方法や外出のルールなどについて、マニュアルを作成し事業所と家族で共有しながら、より良い支援に繋がることを期待したい。

岐阜県 グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意向や家族との相談により、管理できる範囲内で本人自身がお金を所持しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の申し出がある場合には取次を行っています。また、携帯電話を持参されている方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	穏やかでゆったりとした時間が過ごせる家庭的で温かい場所になるよう、生活感・季節感を取り入れた空間作りをしています。	利用者は、対面式キッチンで調理している職員の姿を見ながら、好きな場所で寛いでいる。バリアフリーの全面開放型窓、テラスからも、車椅子や歩行で駐車場に出られるよう広いスロープが設置されている。エレベーターの広さには課題があるが、退室者があった際には利用者や家族と相談の上、安全な部屋移動に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル、座席等は入居者と相談しながら、共有スペース作りをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内が馴染みのある空間となるように、自宅から使い慣れたものを持参して頂いたり、家族の写真や手紙を飾る等しています。	今年度は、廊下からの見学となったが、職員は家族の協力を得て居室が馴染みの空間となるよう、利用者の使い慣れた家具の設置、写真や小物を飾るなど工夫している。荷物の多い利用者もあるが、利用者と家族、職員が相談しながら、安全に過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の状態に合わせた危険の防止や自身の力を生かして動けるような福祉用具の導入を行っています。		